ASIA IN RESONANCE
響きあうアジア2019

シンポジウム

# 三陸国際芸術祭の歩みと未来

三陸国際芸術祭
SANRIKU INTERNATIONAL ARTS FESTIVAL

2019年
7月6日(土)
13:30～18:00 開場 13:00

東京芸術劇場
5階ギャラリー1

定員100名―入場無料
事前申込制。1部または2部のみの参加も可能
主催＝国際交流基金アジアセンター　共催＝東京芸術劇場

写真＝井田裕基

ASIAcenter JAPAN FOUNDATION
東京芸術劇場 Tokyo Metropolitan Theatre

# 三陸国際芸術祭の歩みと未来

## 響きあうアジア2019 シンポジウム

国際交流基金アジアセンターは2015年より「三陸国際芸術祭」と連携しながら、三陸沿岸地域にてさまざまな国際交流事業を展開しています。本シンポジウムでは、「三陸国際芸術祭」のこれまでの歩みと今後の展望を国際交流の視点を交えながら有識者とともに議論します。

国際交流基金アジアセンターが震災後に三陸沿岸地域で実施・支援してきた事業をまとめたブックレットを配布させていただきます。

**申込方法**

https://eventregist.com/e/sanfes

定員100名（定員になり次第、締め切りとさせていただきます）

**「三陸国際芸術祭」とは**

「三陸国際芸術祭」は、東日本大震災の被災地、三陸沿岸地域を中心に郷土芸能とアートの力で被災地の復興、活性化することを目的に2014年から開催されている芸術祭です。

**「響きあうアジア2019」とは**

「響きあうアジア2019」は、国際交流基金アジアセンターが、日本と東南アジアの文化交流事業を幅広く紹介する祭典で、主に2019年6月から7月にかけて開催いたします。国を超え共に創り上げた舞台芸術、映画から東南アジア選抜チーム「ASIAN ELEVEN」と日本チームによるサッカー国際親善試合、"日本語パートナーズ"のシンポジウムまで珠玉のイベントの数々を楽しめる機会です。なお、「響きあうアジア2019」は、同年に東南アジアでも展開予定です。

「響きあうアジア2019」公式ウェブサイト　https://asia2019.jfac.jp/

## プログラム

**第一部 13:30〜15:30**

三陸の郷土芸能ドキュメンタリー 上映
撮影・編集：阿部武司 東北文化財映像研究所代表

「三陸国際芸術祭2014〜2019」ダイジェスト映像 上映
編集：前川十之朗 みんなのしるし合同会社 代表社員

アジアからの応援メッセージ
制作：武藤大祐　群馬県立女子大学准教授

解説 佐東 範一　三陸国際芸術祭プロデューサー
NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク代表

休憩 15:30〜16:00

**第二部 16:00〜18:00**

主催者挨拶
柄 博子　国際交流基金理事
中村 一郎　三陸国際芸術推進委員会 委員長
三陸鉄道株式会社 社長

基調講演
戸田 公明　大船渡市長

シンポジウム／パネルディスカッション

モデレーター
吉本 光宏　株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事

スピーカー
赤坂 憲雄　学習院大学教授
鏡味 治也　金沢大学教授
加藤 種男　クリエイティブ・ディレクター

ディスカサント
相澤 久美　NPO法人震災リゲイン 代表理事
一般社団法人サイレントヴォイス 理事

## プロフィール

**中村一郎 なかむらいちろう**｜「三陸国際芸術推進委員会」委員長、三陸鉄道株式会社代表取締役社長。岩手県盛岡市出身。1979年、岩手県庁入庁。東日本大震災後は、政策地域部長や復興局長を歴任し、2016年3月に退職。同年6月、「三陸鉄道」の社長に就任。「三陸国際芸術推進委員会」の発起人の一人で、委員長を務める。

**戸田公明 とだきみあき**｜岩手県大船渡市長、「三陸国際芸術推進委員会」副委員長。岩手県大船渡市出身。1972年、清水建設株式会社入社。上海営業部長、北京駐在員事務所長、香港営業所長を歴任し、2006年9月に退社。2010年12月より大船渡市長を務める。（在任中の2011年3月11日、東日本大震災が発生。復興完遂に向けて、命を守り、夢を育むまちづくりに取り組む。）

**吉本光宏 よしもとみつひろ**｜ニッセイ基礎研究所 研究理事、1958年徳島県生。東京オペラシティや世田谷パブリックシアター、いわきアリオスなどの文化施設開発、東京国際フォーラムや電通新社屋のアート計画のコンサルタントとして活躍する他、文化政策、文化施設の運営・評価、創造都市、オリンピック文化プログラム、アウトリーチ等の調査研究に取り組む。

**赤坂憲雄 あかさかのりお**｜東京都出身。学習院大学教授。福島県立博物館館長。専門は東北文化論と日本思想史。東北学を掲げて、地域学の可能性を問いかけてきたが、東日本大震災を経て、東北学の第二ステージとさらには武蔵野学を探りはじめている。主な著書に、『境界の発生』『東北学／忘れられた東北』（講談社学術文庫）、『震災考』（藤原書店）ほか多数。

**鏡味治也 かがみはるや**｜文化人類学者、金沢大学人間科学系教授。1954年名古屋生まれ。大学院の時からインドネシア、とくにバリ人の民族文化の文化人類学的研究を続ける。主な著書に『政策文化の人類学-せめぎあうインドネシア国家とバリ地域住民』（世界思想社）、『バリ島の小さな村で』（洋泉社）ほか多数。

**加藤種男 かとうたねお**｜クリエイティブ・ディレクター、専門は、創造経済、創造都市、企業メセナ、文化政策。アサヒビール株式会社企業文化部を経てアサヒビール芸術文化財団事務局長を務める。横浜市芸術文化振興財団専務理事などを歴任し、2012年〜17年企業メセナ協議会専務理事、文化審議会政策部会委員などを務め、文化政策を提言。

**相澤久美 あいざわくみ**｜建築家、編集者、プロデューサー、建築設計の傍、雑誌の編集、ドキュメンタリー映画の製作・配給、一般向けの災害情報紙『震災リゲインプレス』全国無料配布等を行う。2015年よりみちのく潮風トレイルの運営計画策定に携わり、2017年にNPO法人みちのくトレイルクラブを設立、「みちのく潮風トレイル」の運営、プロモーション等を手がける。

主催＝国際交流基金アジアセンター　共催＝東京芸術劇場

https://jfac.jp/culture/events/e-asia2019-sanfes/

国際交流基金アジアセンターはbeyond2020プログラムを応援しています。